令和３年度　幼・保・小連携推進事業

第1回　幼・保・小合同研修会

と　き　令和３年５月２７日（木）午後３時～午後４時４０分

ところ　ニコニコこども館　３階　会議室

「子どもの資質・能力を伸ばすための指導の在り方」

～幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿から～

講師：宮城教育大学教育学部　幼児教育講座　教授　佐藤　哲也　先生

講師の佐藤先生は、就学前教育・保育をめぐる保育思想、カリキュラム論指導援助方法論について研究しておられます。また、保育実践現場と連携しながら、実際の保育場面を捉え、実際に寄与する理論的視点の解明に取り組んでいます。

第１回の合同研修会では、「子どもの資質・能力を伸ばすための指導の在り方」をテーマに教育講演をいただきました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインによる研修会を実施しました。

【就学前施設と小学校との違いを幼児・児童の視点から確認する】

◇　机……就学前は臨機応変に動かすことは可能。小学校は教師の指示により動かす。
◇　遊び…就学前は人数が様々。小学校は集団で遊ぶことが多い。
◇　昼食…就学前は 12 時前。小学校は 12:30 頃、配膳や運搬をする。等
◎　子ども目線で見ることが大事である。

【アプローチ・カリキュラムの紹介】

○「幼児期に育みたい資質・能力」と結びつけた小学校教育前倒しカリキュラム（東京都）
○　はじめに「１０の姿」ありきで、幼児の活動を結びつけたアプローチ・カリキュラム（伊丹市）

【実践構築への視座】

＜基本的事項の確認＞
①　〈１０の姿〉は「知っている」けど「拘泥しない」。
②　〈育ってほしい姿〉ではなく、〈育った姿〉を伝えて行くこと。
③　目の前の子ども、１人１人の子どもが「教科書」である。
④　要領や指針の〈変わらざるもの〉に注目して欲しい。

＜実践を創造する視点＞
①　連携〈cooperation〉、人と人とのつながりこそが大切。
②　幼児と児童をつなぐ〈媒体〉〈接着剤〉を探る。
③　〈host〉と〈guest〉の関係性・互恵性を考慮する。

【アンケートから～参加者の声～】

○　講演をお聞きして「１０の姿」にとらわれすぎずに、目の前の子ども達をしっかりと見て保育をしていきたいと思った。
○　体幹は、トレーニングではなく生活の中で知らず知らずのうちに強くしていくとお聞きして、すぐに実践していきます。
○　佐藤先生の「その子から学び、その子に返していく」という言葉が印象的でした。
○　子どもの「発達」＝「目標」ではなく、本来の成長をありのままにとらえることが重要であり、教師や保育者が子どもの姿を共有しながら支援に努める大切さを改めて認識できた。

郡山市総合教育支援センター